

年頭の辞

参議院議員

佐藤 正久



新年あけましておめでと〜うございませす。旧年中も偕行社の皆様のご支援のおかげで議員活動に専念することができましたこと、誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ると、夏以降、太平洋・インド洋地域では目に見える形で、各国が軍事的動きを活発化させました。

英海軍の「クイーン・エリザベス」空母打撃群の極東派遣を機に、9月から11月にかけて海上自衛隊は米英蘭加印に加えてニュージーランドといった各国海軍との共同訓練を頻繁に実施し、さらに日米豪印のいわゆるQuadによる共同訓練「マラバール2021」もグアム近海、フィリピン近海およびベンガル湾と広範囲で実施して、日米は「自由で開かれたインド太平洋」の構築に向けた強いメッセージを発信しました。

これに呼応するかのよう中国海軍

とロシア太平洋艦隊が、日本海で合同訓練を実施したのちに10隻の艦隊を組んで津軽海峡から太平洋側に抜け、日本の太平洋岸を南下、伊豆諸島、大隅海峡を通過して東シナ海に入るという行動をとりました。日本列島の周囲をぐるりと一周したわけですが、これは日本に対する明確な示威行動であり、日米同盟やQuadに対する牽制と云えます。

これらの件から「自由で開かれたインド太平洋」構想vs「一带一路」構想の軍事的側面が露わになった感がありますが、昨年来急速に緊張感を増した台湾問題が、この対立に複雑に絡み合ってきています。最早、日本は安穩としていられる状況にはありません。陸上自衛隊は9月から11月にかけての「陸上自衛隊演習」で有事における部隊展開の演練と問題点の洗い出しを全国規模で行い、さらに海空自衛隊や米軍との統合実動演習では島しょ奪回を想定した上陸作戦を演練しました。まさに「今そこにある危機」に向けて備えるべき時期を迎えている証左と言えるでしょう。

現在、佐藤は尖閣諸島における「グレーゾーン」の問題を念頭に置いた領域警備法の制定に腐心しております。現場の自衛官の方々が心置きなく任務に専念できるよう、政治と法律の場で愚直に汗をかいていきますことをお誓いして、年頭のご挨拶とさせていただきます。